学習ノート「徹兒哀辭」4

令和5年3月4日（担当　藤原　宮崎　和田　）

原文　4

而叉揣二其文藻一、亦微有二頭緒一、則汝之有レ成或可レ冀焉、
予毎待二兒輩一也嚴、是故兒輩不二敢輙與一、予款語一、予因不二自審一兒之能如一此、
今乃審レ之矣、而兒已没矣、嗟乎是予之所二以重惜一之而重哀一之也、

明治九年六月二十五日

読み4

また、其の文藻を揣り、亦た微に頭緒有り、則ち汝の成る有りを或いは冀うべきか、
予は毎ねに兒輩に侍るや嚴にして、是故兒輩は敢えて輙ち予と款語せざるなり
予は因って自ら兒の能を此の如くに審らかにせず、
今すなわち之を審らにする、而るには兒は已に没するなり。
嗟乎、是れ予の以って重く之を惜しみ而して重く之を哀しむ所なり、

明治九年六月二十五日

訳文4

また、その文才を推しはかると、わずかにその兆しはあった。おまえの成し遂げる事あるのを、願うべきであった。
私は子らといっしょにいる時に、厳しかった。この故に、子らはいつでも私と打ち解けて話すことはなかった。私はだから子ども等の能力をこのように知ることはなかった。
今これは明らかだ。しかし、子は既に死んでしまった。
ああ、これは私の重く後悔するところであり、重くこれを悲しむ所である。

明治九年六月二十五日

語句4

揣＝ハカル　推しはかる
文藻＝ブンソウ　文章を作る才能
頭緒＝トウショ　端緒　きっかけ
或＝アルイハ　冀＝ネガウ
焉＝文末で訓読しないで、……か、　なのだ、ちがいない　輙＝するときはいつも　毎＝ゴトニ　ツネニ　嚴＝ゲンにする　款語＝カンゴ　打ち解けて語り合うこと　審＝ツマビらか　嗟乎＝ああ　嘆く声